

## 県立筑波高等学校自己評価表

目指す学校像	<p>1 教職員と生徒の信頼関係を深め、心のふれ合学年、ホームルーム運営を推進し、本校の教育実践目標である「正しい判断」及び「自主的行動」のできる生徒の育成を積極的に推進する学校</p> <p>2 生徒一人ひとりが各教科・科目の学習や類型の適切な選択等を通して、個性や能力の伸張と確かな学力を身につけることができる学校</p> <p>3 他を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性とたくましく生きるための健康や体力をはぐくむことができる学校</p> <p>4 進路適性理解や就業体験等を通して職業観・勤労観を育て、一人ひとりの生徒の特性等に応じた進路実現を図るとともに、生涯学習社会の変化に適切に対応できる資質能力（生きる力）をもった有用な社会人を目指し、地域に期待される生徒を育てる学校</p>			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
<b>成 果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年毎に実施した小テストは生徒の基礎学力育成に有効であった。</li> <li>・英語検定、漢字検定等の検定を受検することにより学習への意識付けができた。</li> <li>・進路希望別の進路ガイダンスや面接指導は、多くの生徒の進路希望実現に有効であった。</li> <li>・3年間を通じた体系的な進路指導体制が確立しつつある。</li> <li>・ピアスの指導に関して、教員の共通理解のもと一斉に指導し、一定の効果がみられた。</li> <li>・粘り強く頭髪服装指導をしたことにより制服の着装状態や頭髪が改善した。</li> </ul>	基礎学力の向上及び各種検定試験の奨励による学習意欲の増進		<ul style="list-style-type: none"> <li>① 授業填補により授業時数の確保に努め、宿題や小テストを利用して到達度を確認し、家庭学習の動機付けと習慣化を図る。</li> <li>② 生徒の能力に応じたきめ細かな個別指導を実施し、放課後等の補充指導を充実させ、成績不振者の減少を図る。</li> <li>③ 評価方法の見直しや各教科の副教材等の選定及び開発の工夫改善に努め、生徒の学習意欲を喚起する。また、効果的な授業を実践している教員の指導方法等を全体のものとなるよう校内研修会を充実させる。</li> <li>④ 英語検定・漢字検定等の意義等を理解させ、取得のための受験準備の過程で教科学習への意欲を増進し、併せて一般常識テストを活用し、学習の習慣化を図る。</li> <li>⑤ 検定合格の達成感を味わいさせ、新たな目標の動機付けを行い、学習成果の向上を図る。</li> </ul>	B
	類型の特性を活用した進学可能な学力養成		<ul style="list-style-type: none"> <li>① 進学コースでの数学は文系・理系に分け、各々の特性を生かした計画的・継続的な進学課外を実施する。</li> <li>② 生徒の進路希望に適切に対応した教育課程を編成し、より効果的な進路指導を行う。</li> <li>③ 1年次から小論文指導を定期的に行い、推薦入試における論文作成力を養成する。</li> </ul>	B
	職業観・勤労観の育成と充実した進路指導		<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生徒の職業観・勤労観の育成を目指し、インターンシップや「進路の手引き」を活用したLHRを計画的に実施する。</li> <li>② 自己の進路適性理解に向けた進路講演会、進路関係教材等の利用、卒業生による体験発表等を積極的に行う。</li> <li>③ 各大学、短大との連携と各企業への訪問等を積極的に行う。</li> </ul>	B
	<b>課 題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに生徒の実態に即した指導方法や評価方法の工夫を重ねる必要がある。</li> <li>・規範意識の高揚を図り、さらなる指導の効果を上げる必要がある。特に、遅刻者に対する指導を学校全体で行う。</li> <li>・問題行動の未然防止に努める。</li> <li>・教育課程の研究に取り組み、より生徒に適した編成に取り組む。</li> <li>・部活動の活性化を図る。</li> <li>・各種委員会活動の充実と活性化を図る。</li> </ul>		基本的な生活習慣の育成と部活動の活性化による人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ピアスや化粧の根絶等を目指して、定期検査、校門指導や巡回指導を通して適正な服装容儀指導の充実を図る。</li> <li>② 全職員の指導内容に関して、共通理解と共同歩調を基盤とした指導を徹底する。</li> <li>③ 読書指導や学校集会を活用し、生徒自身が「人間としての在り方生き方」を自己認識できる指導を行い、生徒の本分を弁えさせるような工夫改善に努める。</li> <li>④ 登校時指導、巡回指導、学年集会・全校集会の指導を徹底し、度重なる違反者に対しては保護者との連携を密にするとともに協力を要請し、学校・家庭が一致協力して再発防止に努める。</li> <li>⑤ 真摯な部活動を通して責任感や自立心、忍耐力を養い、規範意識を基盤とした自主的活動ができる人材を育成する。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・P T A活動の活性化を図る。</li> <li>・キャリア教育を踏まえた進路指導を進める必要がある。</li> <li>・学習指導・進路指導・生徒指導の体制を全学年が共通理解を持って、継続して取り組む。</li> </ul>	豊かな心の育成とカウンセリングの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 読書指導や挨拶運動、密度の濃い学校行事を通して学校への帰属意識を深める。</li> <li>② 地域社会の諸団体と連携し、ボランティア活動等の体験的な学習を推進し、豊かな心と規範意識の高揚に努める。</li> <li>③ 生徒会活動や特色ある学校行事を通して、郷土を愛する心と愛校心を育成する。</li> <li>④ 校舎内外の美化に努め、清楚な学習環境を維持することにより生徒の豊かな情操を育み、環境美化の心を養う。</li> <li>⑤ カウンセリングの定期的実施により、問題を抱えている生徒の学校生活への適応を図り、校内研修会の実施と支援体制づくりを推進する。</li> <li>⑥ 1年次に「道徳」の授業を通して、生徒の発達段階に応じた人間としての在り方生き方に関する指導を行う。</li> </ul>	B		
	家庭・地域社会との連携を図るP T A活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 卒業生の進路状況や在校生の進路希望状況、学校行事や部活動の成果等をP T A会報やH Pにより地元の小中学校等に情報を発信し、特色ある学校づくりについて地域社会の理解を深め協力体制をつくる。</li> <li>② 学校評議員等の意見や助言を尊重し、学校教育体制の見直し・再点検を積極的に実施する。</li> </ul>	B		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科指導	生徒の実態に即した授業を展開し、基礎学力の向上と学習意欲の喚起をはかる。	多様な生徒に対し、個々の生徒の学力を向上させる授業展開の工夫をはかる。	B	B ・基礎学力の定着と学力の向上をはかるための指導の工夫	
		生徒がわかる授業展開のために、年間授業計画を作成し、また教材の工夫をはかる。	B		
		生徒が主体的に学習に取り組むことができるように評価と一体化した授業方法をはかる。	B		
教 科	国 基礎学力の向上を図る。	高校生としての基礎的な漢字とことばを繰り返し学習することにより、基礎学力の定着を図る。	B	B ・入学当初から卒業までの継続した基礎学力の指導と指導内容の精選 ・各種検定の取得を積極的に促進 ・行事等を通して興味・関心の喚起	
		課題文を読むことを通して、文章を読み的確に理解する力を身につけさせる。	B		
	語 進路に応じた指導を強化する。	作文や小論文などの文章を書くことを通して、自分自身に対する理解を深める。	A		
		文章を書くことを通して、自己を表現する力を養う。	A		
	生徒が興味を持って取り 漢字検定の合格率の向上を目指す。	小テストや問題演習の時間をとり、実力養成に努める。	B		
		百人一首大会を通して、古典への興味を持たせる。	A		
	地 理 歴 史	基礎学力の向上を図る。	歴史用語を漢字で正しく表記できる力を養う。	B	B ・地域の歴史学習への取り組み ・国名、地域など地理的な基礎知識の定着
			学力不振者に対する補習を実施する。	B	
		より良い指導法を探求する。	担当者間で教材の開発・活用法について話し合い、工夫改善を計る。	B	
		教科会等で授業展開の問題点・改善点について意見交換する。	B		
	公 民 科	基礎学力の向上を図る。	課題やノートを提出させ、定期的に点検する。	A	A ・入学当初に基本的な地理的な知識の定着 ・新聞等の活用 ・生徒の興味に即した授業実践 ・基礎学力の定着
			生徒個々人の授業態度の観察や出席状況の把握に努める。	A	
「現代社会」の用語を漢字で正しく表記できる力を養う。		B			
新聞記事やテレビ、インターネットから「現代社会」の諸問題を探求させる。		B			
学力不振者に対する補習を実施する。		B			
より良い指導法を探求する。		担当者間で教材の開発・活用法について話し合い、工夫改善を計る	A		
教科会等で授業展開の問題点・改善点について意見交換する。	A				
考 査 に 偏 ら ない 総 合 的 な 評 価 に 努 め る。	課題やノートを提出させ、定期的に点検する。	A			
	生徒個々人の授業態度の観察や出席状況の把握に努める。	A			
基礎学力の向上を図る。	小テストなどを通して、基礎学力の定着を図る。	B			
	小テスト・定期考査の結果をもとに、理解の不十分な生徒には個別指導をする。	B			

数 学	長期休業には基礎学力定着を目的とした課題を出題し、学習の機会をつくる。	B	B	・勉強の習慣をつけるための授業や課題の工夫	
	進路に応じた指導を強化する。	A			
	少人数指導によるきめ細かな指導を展開し、進路希望に応じた学習内容を構成する。	B			
	課外授業やセミナーを実施し、進学希望者の実力養成を推進する。	B			
わかる授業への改善に努める。	教科内での授業内容・方法等に関する研究協議や、公開授業を通して、授業改善に努める。	B			
家庭学習の定着に努める	定期考査ごとに、生徒たちに自己の課題を認識させ、家庭学習に取り組む姿勢を育成する。	B			
理 科	基礎的・基本的内容の理解と把握に努める。	ワークノート・プリントを利用したり、小テストを実施して学習の理解度を確認し、不十分な生徒へは補習を実施する。	A	B	・基礎学力の定着 ・生徒の能力に応じた授業内容、指導方法の工夫 ・進路に即した指導の強化
		定期的にノートやプリントの点検を行い、学習内容を把握させ、復習にも役立てる。	B		
	進路に応じた指導を強化する。	進路に応じて課外授業を設け、少人数指導を行う。その成果と課題を明確にし、次年度への改善点の検討を行う。	B		
	わかる授業への改善に努める。	教科内で授業内容・方法等について、研究協議する。	B		
保 体	生徒の実態に応じた指導計画の充実を図る。	運動を通して体力の向上を図り、その技能を高める。	B	B	・適切な運動量の確保 ・自他の安全に留意する態度の育成 ・健康を身近なものとして考えさせる工夫
		体育の授業を通して、公正・協力・責任などの態度を育成する。	B		
	生涯体育に結びつくように努める。	運動の特性に触れ、楽しさや喜びを味わわせることにより継続的に運動ができる資質や能力を育てる。	A		
	自らの健康を管理し、改善していく力を養う。	心身の健康について理解させ、意志決定・行動選択などの実践力を高めさせる。	B		
芸 術	実技内容の精選に努める。	興味関心を高めるように教材を精選する。	B	B	・授業の導入方法の工夫 ・アンサンブルの指導方法の工夫 ・欠席の多い生徒の補習を定期的実施
		個々の能力に応じたきめ細やかな指導を工夫する。	B		
	基礎的な知識を養い鑑賞能力を高める。	小テストなどを取り入れ、表現・鑑賞の理解度を高める。	B		
	芸術がわかる喜びを実感する授業に努める。	授業内容・方法等について教科内で授業改善に努める。	B		
英 語	基礎学力の向上に努める。	各種研究会、発表会に参加し自己研鑽に努める。	B	B	・引き続き基礎学力の定着と英検指導の推進 ・習熟度別やTTでの授業についての検討
		小テストなどを通して、基礎的な内容の定着を図る。	B		
		小テスト・定期テストの結果を参考にして、不十分な生徒へは補習を実施する。	B		
		自主学習を勧め、家庭学習の定着を図る。	B		
	資格取得を目指す態度を養う。	英検資格取得のため、進学クラスを中心に、英検の問題を取り入れた授業展開をする。	A		
	英語が分かる喜びを実感する授業への改善に努める。	生徒の能力に応じた教材作成に努める。	B		
		各種研修会に積極的に参加し、教科内で発表するとともに自己研鑽に努める。	C		
多方面からの評価に努める。	A L Tを積極的に活用し、生徒が積極的にコミュニケーションをする態度を養う。	B			
家 庭	基礎的知識と技術の定着を図る。	定期テストだけでなく、提出物や授業態度等多方面からの評価に努める。	A	B	・被服実習、調理実習を充実 ・生徒の学習意欲の向上のための工夫
	資格取得のための検定への受験を勧める。	より良い評価方法を目指し、教科内で話し合いを十分に持つ。	B		
	生きる力の育成に努める。	プリント学習、調べ学習を適切に取り入れ基礎的知識の定着を図る。	A		
		文部科学省後援の被服・調理検定の合格を目指す。	B		
情 報	基本的な技能の育成を図る。	ホームプロジェクトを通して家庭での問題解決能力を養う。	B	B	・教育情報ネットワークを活用して電子メールの使い方の指導
		被服実習、調理実習を通して生活能力を高める。	B		
	情報活用の実践力を高める。	ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトなど、多くのソフトを活用する。	A		
	茨城県教育情報ネットワークを積極的に活用する。	B			

報	情報社会に参画する態度を育てる。	情報検索，プレゼンテーションなどを通して，情報活用の有効性を感じさせる。	B	
	資格取得を奨励する。	検定試験取得のための指導をおこなう。	A	
商	情報機器の基本操作を習熟させる。	コンピュータの基本操作と，キーボード操作（アプリケーションソフト）の習熟を目指す。	B	B
	情報処理能力を高める。	基本的処理（合計，平均，グラフ，印刷）を含めた，書類の作成能力を育成する。	B	
業	検定試験の合格率を高める。	各自の能力に応じて検定の合格を目指す。 全商ワープロ（3級，2級） スピード検定（4級，3級，2級）	B	B
	授業時間の確保に努める。	授業変更の早めの連絡を周知徹底し，また欠課時数に関する教科担当・担任・保護者間の連絡を密にする。 授業填補により，学年間・教科間の連絡で自習時間を極力減らすようにする。	A A	
教	多様な生徒に対応した教育課程の編成と運営に努める。	生徒の実態に応じて，よりよい教育課程を編成する。 シラバス作成に向け教科間で話し合い，適切な年間指導計画を作成し，評価と一体化した学習指導がはかれるようにする。	B B	B
	校内研修を充実させる。	校内での公開授業や研究授業によって，学習指導の力量を高められるようにする。 各種研修会に参加した情報を教職員間で共有し，報告会や研修会の実施を推進する。	B B	
務	生徒の学習意欲を喚起し，学力向上に努める。	家庭学習の習慣化を定着させるため，宿題や小テストを効率的に実施する。 教材の共有化や効果的な副教材の選択を行い，学習意欲の向上に努める。 生徒との個別面談や拡大会年会を行い，学習の実態把握と改善に努める。	C B C	B
	成績不振者に対する適切な指導を行う。	個別面談等を通じて，生徒の能力に応じた適切な学習指導の改善方法を探る。 教科担任・クラス担任・家庭との連絡を密にし，改善のための方策を検討する。 教科・学年との連携を図り，定期的な補習授業などの充実を図る。	B B A	
	成績処理や事務処理の効率化を図る。	定期考査や実力考査の成績処理の効率化と適正化を図る。 指導要録や調査書作成の効率化と適正化を図る。	A B	B
	学年と連携をとりながら，全体計画の作成に努め，進路指導の充実を図る。	進路ガイダンス，職場見学，就業体験等3年間を見通した行事計画を作成する。 「進路の手引き」を利用した進路の時間を，LHRに組み込む。 各学年の進路シラバスを作成し，全体の骨格を構築する。	A C C	
進	進路指導を通し，生徒の自己理解を深めさせ，自分に適した進路選択能力つけさせる。	進路講演会，大学の模擬授業，卒業生による講話等を実施し進路意識を高める。 進学希望者に対して内容を充実させた課外，学習セミナーを計画し学力を高める。 毎月「進路だより」を発行し，進路情報の提供に努める。 常識テストを実施し，1学年から進路意識を高める機会を増やす。	A B A B	B
	大学・企業等との連携を深めて情報の提供に努める。	多くの企業を訪問し，就職の選択肢を増やす。 大学・短大等の説明会に積極的に参加し情報を得る。 多様な生徒の実態に対応出来るように，就職進学についての職員研修を実施する。	B B B	
特別活動	学校行事，委員会活動を通して帰属意識，協調性，責任感を養う。	行事の意義を理解させ，全員参加による学校行事を展開する。 各種委員会の活動の充実に努める。 歩く会，クラスマッチ，体育祭への積極的な参加を通して，成就感，達成感を体験させ，連帯感を養う。	A B B	B
	部活動への積極的な参加とその継続を図る。	生徒の自主的，自発的活動が促進できるように，顧問による適切な指導・助言を行う。 活動を通して，生徒の心身の健康の向上に努める	A B	
生	マナーとモラルの向上を目指す。	生徒指導の強化週間を設けて校内巡視を計画し，問題行動の未然防止に努める。 基本的な生活習慣の確立と心の教育の充実を図る。 禁煙教育と薬物乱用防止教育の充実に努める。	B C A	B

徒 指 導	基本的な生活習慣の確立と心の教育の充実を図る。	遅刻カードを利用した遅刻防止策を励行し、常習の生徒には特別指導を実施することで改善を図る。	B	B	継続的指導  ・事故の未然防止のための指導の工夫
		規範意識の確立や服装・頭髪の適正化を目指し、全校集会・学年集会・HR等で周知徹底を図る。	B		
	禁煙教育と薬物乱用防止教育の充実を図る。	生徒指導の強化期間を設け、服装・頭髪・遅刻等の指導に全職員で対応する。	B		
		喫煙防止講演会を開催し、禁煙教育の充実を図る。	A		
図 書	図書館利用の活性化を図る。	VTRやCD-ROM等の教材を授業やHR等で積極的に活用し、薬物乱用防止教育の徹底を図る。	B	B	・図書貸し出し冊数の増加  ・図書委員会活動の活性化
		毎日開館し、図書館の美化や図書の充実・整備に努める。	A		
	読書意欲を向上させる。	委員会活動を推進し、「図書館便り」発行や新着本の掲示などの広報活動に努める。	B		
		感想文・感想画の校内コンクールを実施し、優秀作品を県のコンクールに出展する。 読書会や国語科と連携した読書指導を通して、優れた図書に触れさせ、人生や生きることの意義について考えさせる。	A B		
保 健 厚 生	学校環境の整備及び美化につとめる。	自然や環境に配慮し、ゴミの分別や減量化・再利用に努める。定期的にゴミ拾いを実施する。	C	B	・特別支援教育への共通理解と協働のための努力  ・保健委員会・環境美化委員会の活動の活性化
		清掃用具の管理に努め、清掃指導を徹底する。清掃状況の点検に努め、美意識を高める。	C		
	学校生活不応・特別支援を要する生徒に対する情報交換と支援を充実させる。	学校生活不応や特別支援を要する生徒に対して、スクールカウンセラーと連携し、担任・学年との情報交換を密に行い、早期発見、早期支援と充実をはかる。	A		
		職員に対し、教育相談の研修会を開き、一層の理解と質の向上をはかる。	B		
生	健康に対する意識向上をはかる。	生徒が自己の健康状態を正しく把握し、その維持向上を図れるよう指導助言する。	B		
	渉 外	PTA活動の活性化を図る。	PTA役員と学校との連絡を密にする。	A	B
PTA総会および春季支部総会等、PTA関連行事の活性化を図るとともに、保護者に対して学校の教育活動について理解を求める。			B		
第 一 学 年	基本的な生活習慣を養う。	日常の学校生活を通じて、基本的な生活習慣や規範意識の確立に努める。	B	B	・個人差に応じた学習指導の工夫 ・学習意欲の向上と基礎基本の定着の指導 ・進路意識を高め、よりよい進路実現に向けての指導を徹底 ・保護者との連携の強化
		定期的に服装や頭髪指導を実施し、規範意識の向上に努める。	A		
		生徒の観察や相談連絡等を通して生徒の実態把握や生徒理解に努める。	A		
		問題行動を防止するために、家庭との連絡を密にする。	A		
	基礎学力の習得に努める。	予習・復習を励行し、授業に対する主体的な取り組みができる態度を育成する。	B		
		小テストを活用し、家庭学習に取り組む態度を育成する。	A		
進路意識を確立し、必要な学力の養成に努める。	成績に関する問題点に対して、家庭との連絡を密にする。	A			
	個別の面談等を実施し、個々の能力や適性を把握し、目的に合わせた進路指導を行う。	B			
	適性に合わせた課外指導を実施し、進路意識を高める。	B			
	校外模試や各種検定試験を積極的に取り入れ、進路目標を具体化する。	A			
第 二 学 年	基本的な生活習慣を養う。	日常の学校生活を通じて、基本的な生活習慣や規範意識の確立に努める。	A	B	・家庭学習時間の確保と予習・復習定着のための指導の工夫  ・進路意識高揚に続いて、職業に対する意識向上を目指す具体的な目標設定のための指導
		定期的に服装や頭髪指導を実施し、規範意識の向上に努める。	B		
		生徒の観察や相談連絡等を通して生徒の実態把握や生徒理解に努める。	A		
		個別面談等を実施し、問題行動を防止するために、家庭との連絡を密にする。	A		
	学力の向上に努める。	予習・復習を励行し、授業に対する主体的な取り組みができる態度を育成する。	B		
		各種セミナー・検定試験、その他の学校の企画・立案事項について周知徹底し、積極的に参加させる。	B		
	能力や適性を把握し、個々の進路希望に対応させる。	小テストを活用し、学力を定着させるとともに、幅広い知識・教養を身につけさせる。	B		
		生徒一人一人に合った進路指導体制を充実させる。	B		
		総合的な学習の時間を利用し、進路について深く考えさせる。	A		
		実力養成課外・小論文指導・進路ガイダンス等を通じて、進路意識と学習意欲を高める。	A		
進学希望者には、校外模試への参加を積極的に促し、的確な自己評価を踏まえ目標を持たせる。	進学希望者には、校外模試への参加を積極的に促し、的確な自己評価を踏まえ目標を持たせる。	B			
	就職希望者には、個々の適性にあった目的を持たせ、日々の生活や部活動を通して心身の充実を図る。	B			

第 三 学 年	基本的な生活習慣を養う。	卒業学年としての自覚を持たせ、基本的な生活習慣や規範意識の確立に努める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻者減少のための遅刻指導の徹底</li> <li>基礎学力定着への取り組みの強化</li> <li>総合学習の時間を利用した進路指導の充実（面接指導、個別指導の継続、資料の共有化）</li> <li>バス見学会の有効利用</li> </ul>
		定期的に服装や頭髪指導を実施し、規範意識の向上に努める。	B		
		生徒の観察や面談、連絡等を通して、生徒の実態把握や生徒理解に努める。	B		
		問題行動を防止するために、家庭との連絡を密にする。	B		
	学習について主体的に取り組む態度を育成する。	小テストの実施により、基礎学力の向上に努めるとともに主体的な学習態度を育成する。	B		
		英語検定、漢字検定、コンピュータ検定等の資格取得を奨励する。	B		
		進路目標の実現に努める。	B		
進路目標の実現に努める。	進路指導の研修に努め、生徒の実態や進路希望等に即した学習計画を立てる。	B			
	実力養成課外、小論文指導、進路ガイダンス等を通じて、生徒一人一人に合った進路指導体制を充実させる。	B			
	総合学習やLHRでの進路別学習を通して進路意識を高め、生徒一人一人の進路実現に努める。	A			
	オープンキャンパスや学校説明会、職場見学に積極的に参加させ、生徒一人一人の希望進路実現に努める。また、面接指導を積極的に行う。	A			

※評価基準： A：目標が十分に達成された B：ある程度成果が見られた C：取り組んだ D：課題を残した E：取り組むことができなかった